

令和8年度宮城高等歯科衛生士学院学校関係者評価概要報告

I 学校運営方針

宮城高等歯科衛生士学院の教育理念である、高度な専門能力・自ら課題を創造する・思いやりと社会性を持ったヘルスプロモーションの担い手として医療機関・施設・行政において、必要とされる各業務に適応できる人材を育成する。今後さらに充実させ、新たな改革と発展を目指し、教職員の意識改革・自己研鑽に努める。加えて、高度な視点から多様化した歯科保健医療を捉えた質の高い歯科衛生士として国民の新たなニーズに応えてまいります。

II 重点目標

- (1) 基本的な医学知識を備えた行動
- (2) 生涯研修と自己啓発の意識
- (3) 歯科衛生ケアプロセスの実践
- (4) 対人サービスと社会性、コミュニケーション
- (5) 研究活動の奨励、国際交流

III 学校関係者評価委員会の概要

<第1回>

- (1) 日 時 令和8年7月14日(火) 午後6時30分～7時50分
- (2) 場 所 宮城県歯科医師会館 4階 会議室
- (3) 出席者 学校関係者評価委員<順不同>・・・5名
 - 江 草 宏 (連携校・実習協力校代表)
 - 伊 藤 美香子 (臨地・臨床実習協力施設代表)
 - 岡 橋 美奈子 (業界代表)
 - 菅 原 甚 一 (地域住民代表)
 - 堀 込 ゆかり (卒業生代表)

本学院

- 佐々木 優 (学院長)
- 上 原 忍 (副学院長)
- 荘 司 伸 樹 (教務部長)
- 角 田 哲 (副教務部長)

三 浦 啓 伸 (副教務部長)
小 原 由 紀 (教務主任)
阿 部 寿 郎 (事務長)

(4) 内 容

① 報告

- ア 令和7年度「学校評価」事業の経過について
- イ 令和8年度の主な学校行事について
- ウ 学院の概要について

② 協議

- ア 令和7年度の自己点検評価に関する集計結果について

報告事項及び「令和7年度の自己点検評価に関する集計結果について」の協議等も含め以下のような質疑応答、意見交換が行われた。

・入学者数が定員を超えて確保できたこと、国家試験合格率が全国平均を大きく上回ったことは大変喜ばしいことで、これらの数値は外から見たときに目につきやすい評価数値であり学院の努力の結果だと思う。

・教員実施組織、教員の項目で、教員の授業時間数や教育力の把握、評価、教育体制の整備などの評価数値が気になる。これらは必ずしも財務基盤に関係なく外部評価の観点からも改善が必要と思われる。

・教育環境の項目で安全対策、防火組織、施設整備・改善等の項目の数値が低いが、もちろんこれだけ歴史のある建物なので計画的に進まないこともあると思うが、安全対策、防災組織についてはしっかりと取り組まないといけないと思う。

・町内会や地域住民に貢献できる取組や、校外から認識させるための看板設置、学生のミーティングスペース等の環境整備を検討していきたい。

・社会人入学者が結構増えているようだが、社会人が入学にトライできるような制度を考えてほしい。現在仕事をしている歯科助手から働きながら歯科衛生士を目指したいというニーズがあり社会人卒の拡充や二部制とか夜間開講とかも検討してほしい。社会人が増えるといい意味で学院の雰囲気が変わってくるんじゃないかと思う。

・安全対策について、会館が古いので特に地震への対応について気になっている。予算的な問題もあるとは思いますが計画的に対応していく必要があると思う。

・震災後に結構な予算を確保して耐震補強工事を実施しているが、時間もたっているので、建築士に依頼して現状確認、調査を行う等対応していきたい。

・学生が臨床実習に来た時に作成する実習日誌について、紙1枚で簡単な記述で終わっていることがある。看護師実習とかと比べると非常に簡潔で表面的な記述にとどまり深堀が足りないようなものが見受けられる。実習日誌の作成についてどう指導しているかをお伺いしたい。

・実習日誌については、1日で1枚作成としているが、様式の見直し等検討段階である。事前オリエンテーションでは、作成の仕方の雛形を学生に提示しているがそれを理解して書いている学生とそうでない学生がいることも事実である。実習終了後チェックして指導しているが、できれば実習現場でもその場その場で具体的な指導・フィードバックや課題レポートの提出等指導していただけると学生も理解できると思うのでご協力願いたい。

・現場で悩みや壁にぶつかる学生が多いため心構えの指導や、地域・多様な現場（障がい者施設やイベント等）で活躍する歯科衛生士の姿に触れる機会（インターンやコラボ）を生かして経験を積んでほしい。

・緊縮財政なのはわかるがあまり強調すると組織が前を向かなくなってしまうので、宮城県、東北地域の医療体制を支える革新的な人材を育てるという理念やミッションを明確にし、大学や行政など多面的なステークホルダーと連携していくことが必要だと思う。